



3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！(祝)

本号では、卒業記念ということで、校長先生・村上先生よりメッセージをいただきました。

《 校長先生より 》

卒業に寄せて



3年生の国語の教科書に『故郷』という魯迅の作品が載っています。長い間離れていた故郷に久しぶりに帰った主人公が、すっかり様変わりしてしまった故郷やそこで暮らす人たちの姿にがっかりしてしまうのですが、若者たちは将来、自分たちができなかった新しい生活を送ってほしいと強く願います。この作品の最後の部分です。

——思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

「希望」という言葉を「夢」という内容に置き換えてみましょう。みなさんもたくさん夢をもっていると思います。将来なりたい職業や、将来ぜひ実現させたいことなど。そんなものを、今ちょっと思い浮かべてみてください。それらの夢に向かって進んでいく時のワクワクする気持ち。本当に今からが楽しみですね。

9年間の義務教育を終え、新しい世界へそれぞれ旅立っていきますが、自分の手で自分の道を切り開いて、一步一步着実に進んでいってほしいと思います。



《 村上先生より 》

文字の力

以前読んだ『チ。ー地球の運動について』（魚豊，2020，小学館）という漫画の一場面で、すごく印象に残ったものがあります。

その漫画は、まだ印刷技術も生まれていなくて本が珍しかった時代、身分によっては文字を読むこともできない人が多くいた時代が舞台のお話でした。

文字を読めない人が、文字の読める人にこう尋ねます。

「あの、文字が読めるってどんな感じですか？」

すると尋ねられた人はこう答えます。



「文字は、まるで奇跡ですよ。本当に文字はスゴいんです。アレが使えると、時間と場所を超越できる（「とびこえられる」という意味）。200年前の情報に涙が流れることも、1000年前の噂話で笑うこともある。そんなの信じられますか？文字になった思考はこの世に残って、ずっと未来の誰かを動かすことだってある。そんなのまるで奇跡じゃないですか。」

本が貴重だった時代、文字を読むことが特別だった時代の人たちは、きっとこんな感動をもって本を読んでいたんだろうなと考えさせられました。文字は時間や空間を越えて、読んでいるあなただけに語りかけてきます。そんな読書という特別な体験を、これからも大事にしていってほしいと思います。



《 先生たちが影響を受けた本 》

3年部の先生に、“影響を受けた本”について聞いてみました。

気になる本は、ぜひ高校などの図書館で借りて読んでみてください。

●小西先生

「北の海」

(井上靖／著 新潮社)

→ 優秀な学生が柔道に没頭する姿にあこがれました。
当時柔道をしていた人の中では、よく読まれた本です。



●山崎先生

「力がなければ頭を使え」

(迫田穆成、田尻賢誉／ ベースボール・マガジン社)

→ “言葉の大切さ” その時の状況からにじみ出る自然の言葉、
それが生徒たちの活力となる、というメッセージに心を
打たれました。



●加藤先生

「三国志」

(吉川英治／著 講談社)

→ (卑弥呼のころの) 中国の物語です。とにかく長い！
そして、登場人物が多い。記憶力と忍耐力が鍛えられます。



●吉中先生

「道程」

(高村光太郎／著 角川春樹事務所)

→ 「僕の前に道はない 僕の後ろに道ができる」
ある道を行くのではなく、自分で歩むことで道ができる
ことに気付かされました。



《 卒業生いろいろランキング 》



一番本を読んだ人

内田 柚奈さん



ページ数 NO.1

岩原 由奈さん



一番多く読まれた本

かがみの孤城 (辻村深月／著 ポプラ社)



《 思い出の写真 》



冬の定位置母



たくさん本を選びました



意外とここが暖かい



最後までおすすめ本、ありがとう



迷わないわけじゃない。悩まないわけじゃない。
揺れないわけじゃない。
迷いも悩みも惑いも、いずれは自分の力に変えて
いける。

(『バッテリーV』 P.74 より)



「なによりも大切なこと」 あさのあつこ／著
PHP 研究所

